

事務局だより

令和 4 年度 (2022 年度) 炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
北田 孝典	部会長 (任期 2 年)	大阪大学
牛尾 直史	副部会長 (任期 2 年)	原子燃料工業
竹田 敏	庶務幹事 (任期 2 年)	大阪大学
千葉 豪	部会等運営委員会担当運営委員 (任期 1 年)	北海道大学
西山 潤	編集委員会担当運営委員 (任期 1 年)	東京工業大学
多田 健一	HP 担当幹事	原子力機構
方野 量太	HP 担当幹事	原子力機構
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
辻田 浩介	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力エンジニアリング
高野 渉	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	GNF-J
郡司 智	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
竹澤 宏樹	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	長岡科学技術大学
佐野 忠史	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	近畿大学
左近 敦士	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	近畿大学
高木 直行	セミナー小委員会担当幹事 (任期 2 年)	東京都市大学
山路 哲史	セミナー小委員会担当幹事 (任期 2 年)	早稲田大学
黒田 祐輔	セミナー小委員会担当幹事 (任期 2 年)	テプコシステムズ
和田 怜志	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東芝エネルギーシステムズ
荒木 祥平	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構
遠藤 知弘	学術交流小委員会担当幹事 (RPHA 担当)	名古屋大学
横井 公洋	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	日立製作所
佐藤 駿介	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	電力中央研究所

部会選出原子力学会代議員

辻本 和文 (原子力機構)

北田 孝典 (大阪大学)

編集小委員会からのお願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の記事として、「部会員の声（自由投稿）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しております。また、部会ニュース（炉物理部会ホームページに掲載）の投稿もございましたらお知らせください。

編集小委員会（部会報）担当幹事連絡先（2022年度及び2023年度担当）

日本原子力研究開発機構	郡司 智	gunji.satoshi74[at]jaea.go.jp
長岡技術科学大学	竹澤 宏樹	takezawa[at]vos.nagaokaut.ac.jp
日本原子力研究開発機構	福田 航大	fukuda.kodai[at]jaea.go.jp

[at]はアットマークと読み替えて下さい。

炉物理部会報「炉物理の研究」の各収録記事の著作権は原著者にあります。転載等をご希望の場合には、原著者の了解を得てください。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先などに使用されます。登録情報（勤務先、Eメールアドレス等）に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをお願いいたします。

編集後記

炉物理の研究第 75 号の発行に際し、ご多忙中にも関わらずご執筆をご快諾いただいた部会員の皆様に深く御礼申し上げます。

特集では、シリーズ「歴代部会長から」として、この 20 年間に本炉物理部会部会長を務められました先生方から今の炉物理部会に対するご助言をいただく企画を始めます。その第 1 回は、2002 年度に部会長を務められました竹田敏一先生からご寄稿いただいております。先生が炉物理と出会われた頃のお話から日本の炉物理に対する今後の期待まで、大変興味深い内容ですので、ご一読いただければと存じます。

受賞記念寄稿では、学会賞 2 件、部会賞 1 件の計 5 名の受賞者から寄稿いただきました。部会員の皆様の今後の部会活動に資するこれらの素晴らしい研究成果を励みに、今後の展開に期待したいと思います。

ご存知のとおり、2019 年度末から広がる新型コロナウイルス感染症により、以降の国内学会、国際会議、そして炉物理部会の夏期セミナーはやむなく中止もしくはオンライン開催となっております。その間、テレワークの大幅な拡大などもあり Web 会議の便利さと手軽さは研究活動においても有効な手段となりました。しかしながら今年度半ばからはポストコロナへのシフトということで、久しぶりの対面開催による原子力学会が 2022 年秋の大会（茨城大学）から再開し、2023 年春の年会（東京大学）も有意義に終了したところです。個人的には、やはり対面の方が発表者の熱意も伝わりやすく、参加者間のコミュニケーションが取りやすい、そう感じた次第です。

コロナ禍では外出・遠出を控えておられた方も多かったと思いますが、今年度は国内外への出張・個人旅行を再開された方も多いたと思います。政府の水際対策が緩和されたことで、外国人の観光客も良く見かけるようになりました。そのような周囲の変化もあり、先日コロナ禍で開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」に初めて足を運びました。コロナの緊急事態宣言は終わりましたが、原子力緊急事態宣言はまだ解除されず、この原子力災害に対して我々の出来ること、やるべきこともまだまだ残されていると感じた次第です。

最後になりましたが、部会報「炉物理の研究」の発行に関しまして、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

編集小委員会担当幹事

日本原子力研究開発機構 郡司 智